

島根県那賀郡金城町内
遺跡分布調査報告書Ⅱ

1987年3月

育委員会

序 文

金城町教育委員会は、文化庁の補助事業として昭和60年度から2年間で、「埋蔵文化財分布調査」を実施しました。

第1年度は、波佐・長田地区を対象に行い、その状況は「調査報告書I」として報告したところです。

第2年度は、波佐・長田地区を除く町全域について実施しました。何分にも広範囲にわたる調査でありましたが、調査指導者及び、調査員の熱心なご努力により、大きな成果を挙げることができました。

文化財行政は、一層その重要性を加えておりますとき、町全域にわたる調査を終えることができたことは、極めて有意義であると思います。

この報告書が、各方面に利用されることを期待するとともに、調査に当たっていただきました皆さんを中心に、町民の間に文化財に対する理解と関心が、一層高まることを願うものであります。

この調査並びに本書の刊行にあたって、懇切なご指導ご協力をいただきました関係者の方々に対し、心から感謝しお札申しあげます。

昭和62年3月

金城町教育委員会

教育長 水崎 齊

例　　言

1. 本書は、昭和61年度、国および県の補助を受けて島根県郡賀郡金城町が実施した町内遺跡分布調査の報告書である。
2. 本年度の遺跡分布調査は、金城町久佐・今福・追原・入野・上来原・下米原・七条・小國地区を対象とした。
3. 本年度調査した遺跡の台帳は、金城町教育委員会に保管している。
4. 調査の事業主体および体制はつきのとおりである。

事業主体	金城町				
事務局	金城町教育委員会教育次長		服部譲治		
	金城町教育委員会教主事		河野文影		
	金城町教育委員会主事		占城満秀		
調査指導	島根大学法文学部教授				
	島根県教育委員会文化課課長補佐		田中義昭		
	島根県教育委員会埋蔵文化財第一係長		蓮岡法暉		
	島根県教育委員会文化財保護主事		永塚太郎		
	宮沢明久				
調査員	田中宅次郎	勝手三郎	山崎義弘	宇川徳美	隅田正三
	森口寛	(以上、金城町文化財保護審議委員)			
	小谷紀美雄	岡本利道	岩土松若	山田俊晴	井川春夫
	石田邦夫	岡本筹建			

5. 調査にあたっては、土地所有者をはじめ、地元の関係者にいろいろと指導、ご協力をいただいた。
6. 本書で使用した地図（一部）は国土地理院の複製承認を得たものである。
7. 本書に記載の出土品（岩塙II遺跡を除く）及び図面、絵図等（P32-P35）は金城町歴史民俗資料館に収蔵展示してある。
8. 本書は、調査員が協議して編集した。

目 次

序 文 (教育長 水崎 齊)	
例 言	
久佐・今福・追原・入野・上来原・下来原・七条・小国地区遺跡分布調査集成	1
はじめに	17
金城町の遺跡	17
結 論	24

図・表・写真図版等目次

遺跡分布調査区域図	1
遺跡分布図	2
金城町内遺跡所在地一覧表	
（久佐・今福・追原・入野・上来原・下来原・七条・小国地区）	12
岩塚II遺跡全景・出土品	20
金城町出土遺物実測図	21
金田1号墳出土土器実測図	22
金田1号墳出土土器	23
写真図版（郷田門遺跡、その他）	25

金城町の位置



凡例

- ▲ 製鉄遺跡
- 城跡
- ▲ 古墳、古墓
- 集落跡
- 遺物散布地
- ◎ 寺院跡及びその他の遺跡

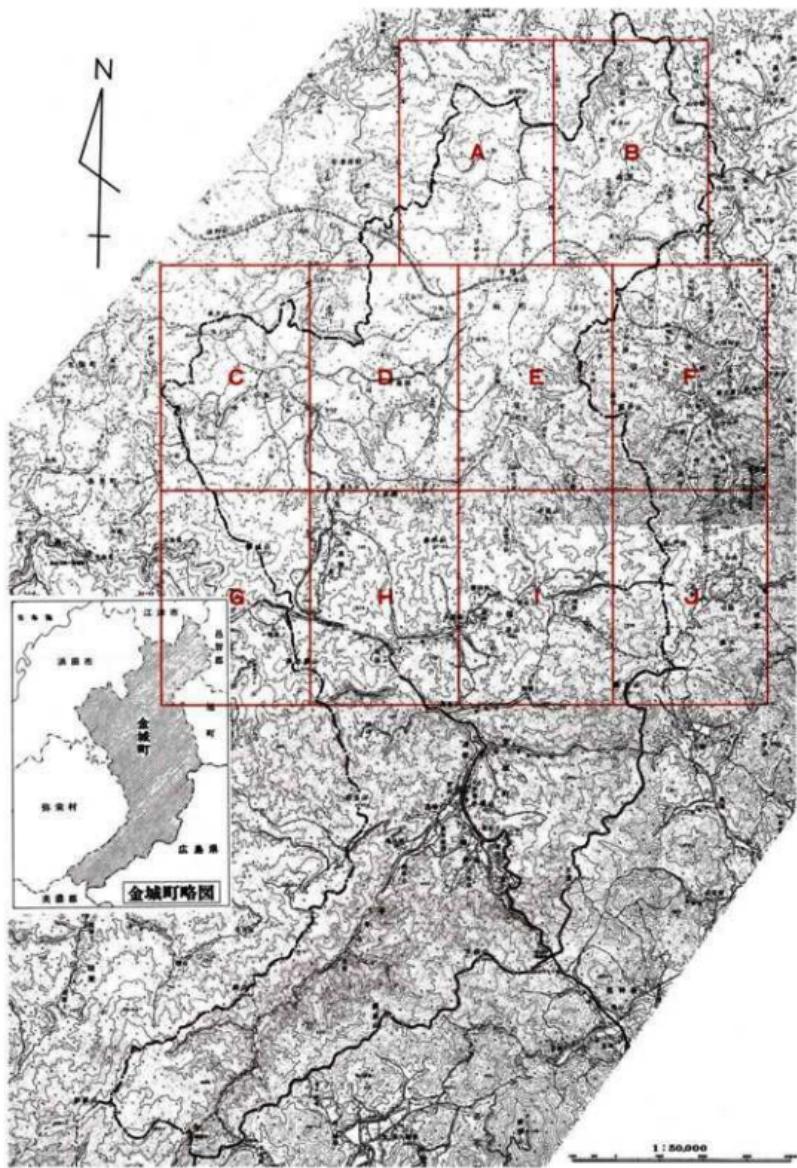


図1 遺跡分布調査区域図

A-B 都野津・川戸・石見今福・石見今市 (1:25000)

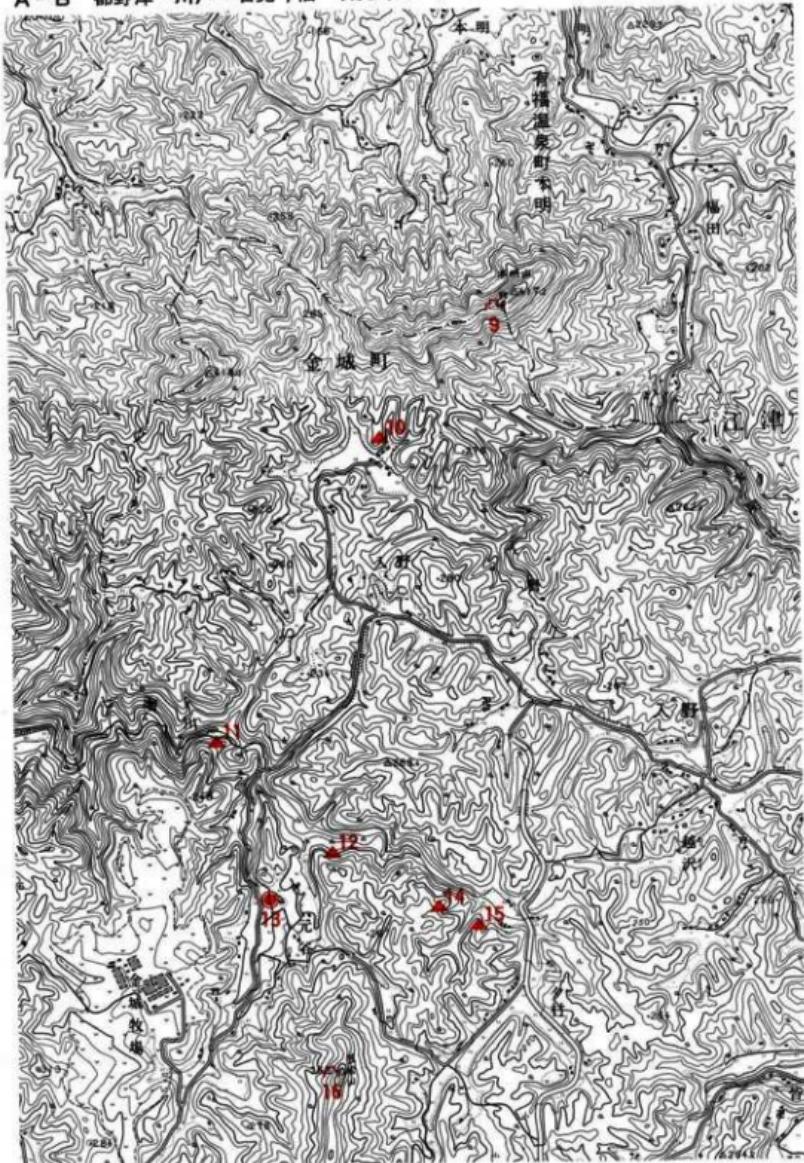
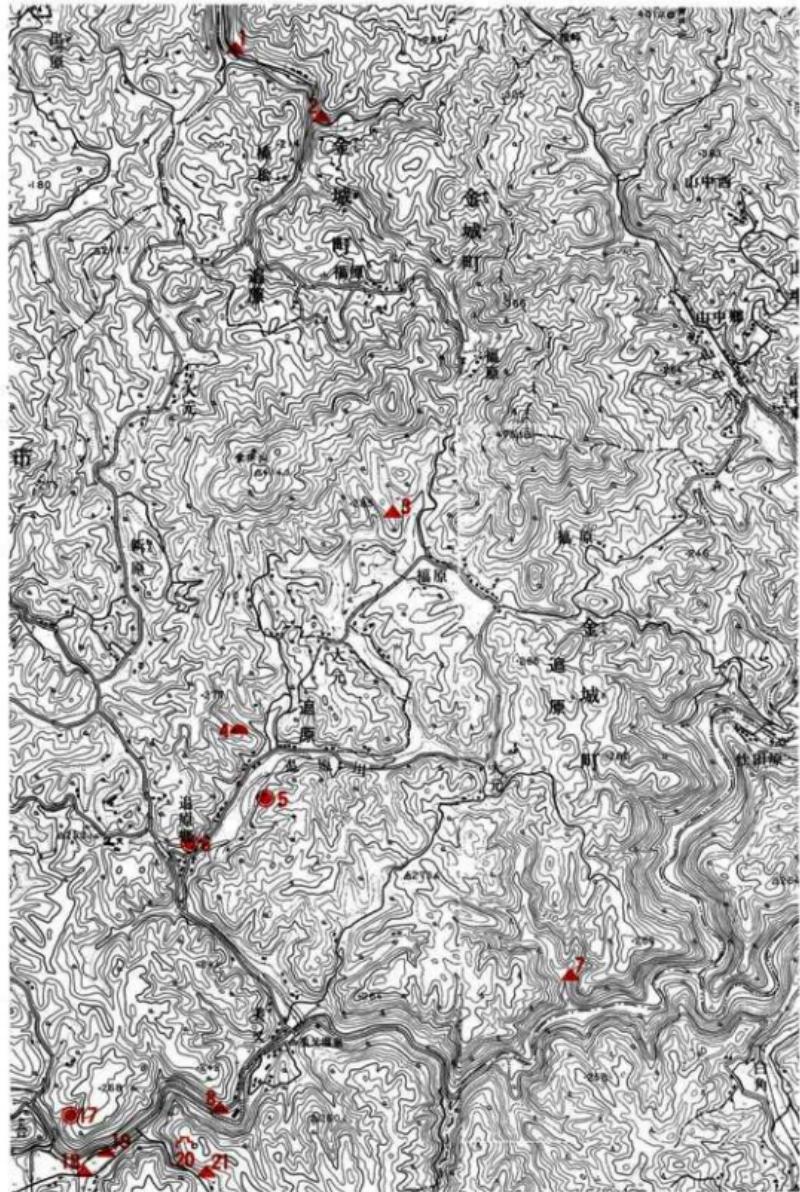


図2-1 今福・追原・入野地区遺跡分布図



C-D 石見今福 (1:25000)

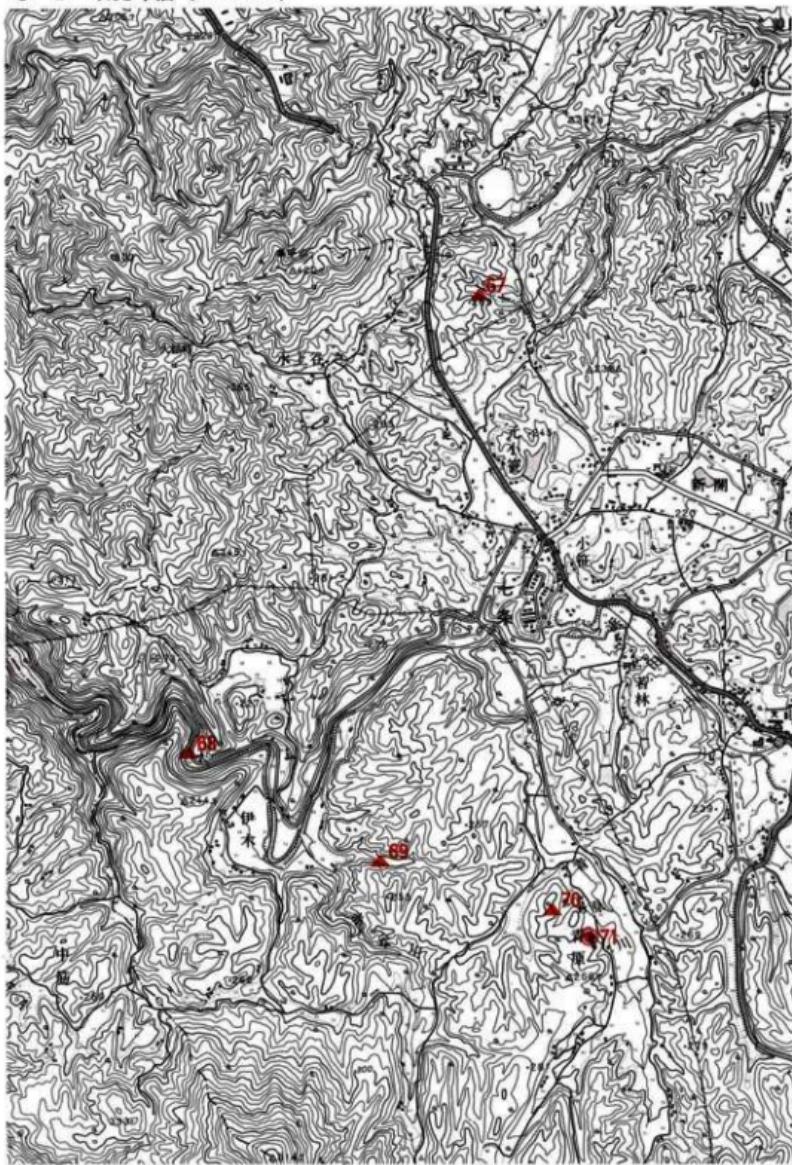
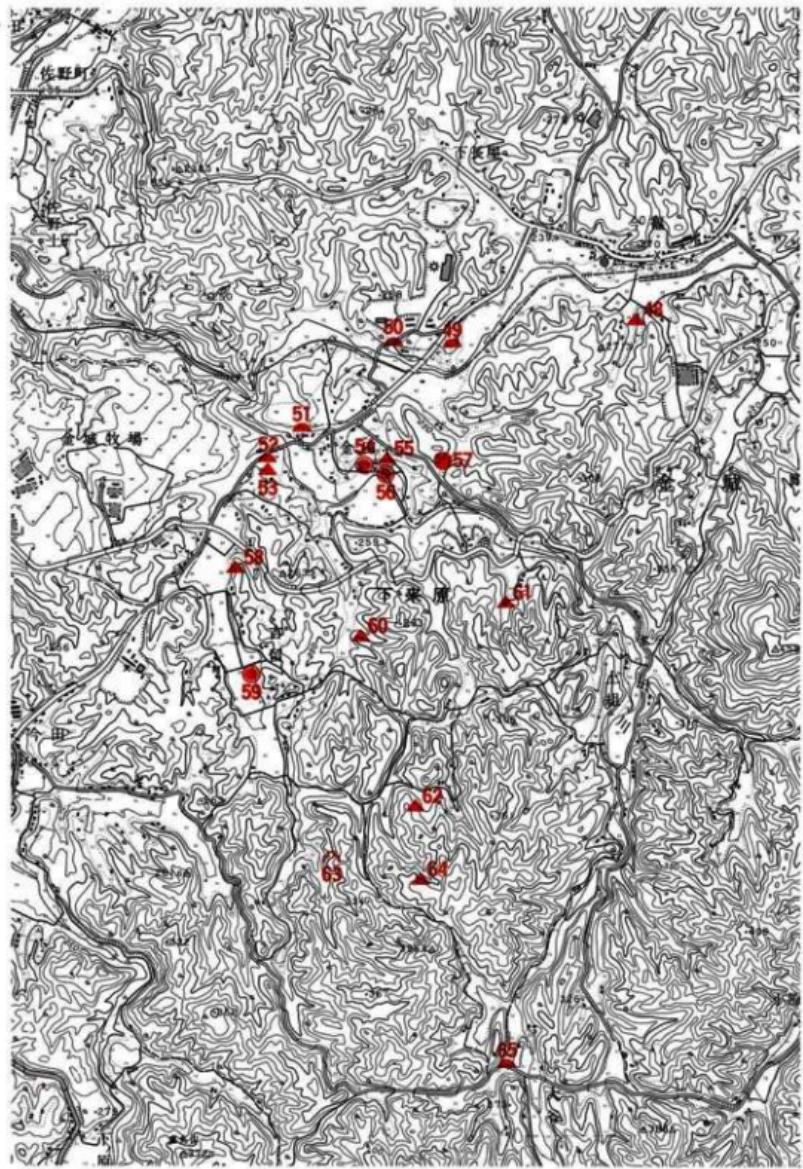


図 2-2 下来原・七条地区遺跡分布図



E-F 石見今福・石見今市 (1:25000)

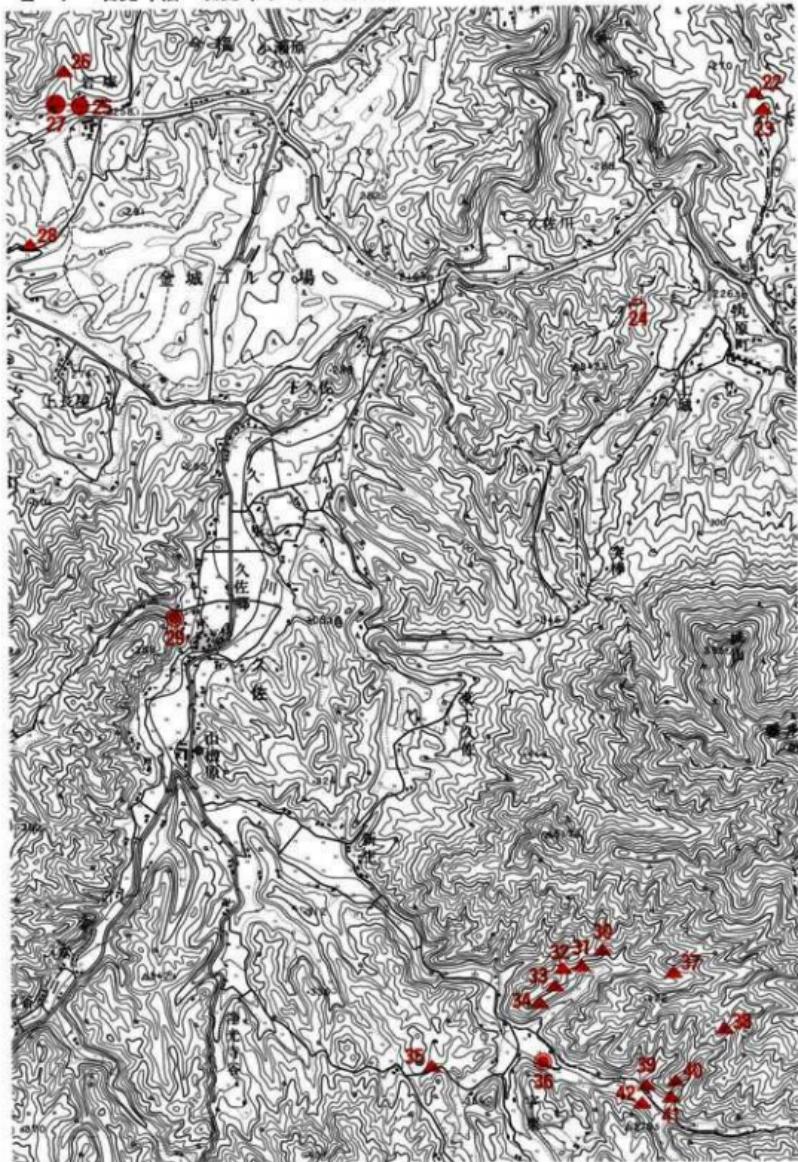
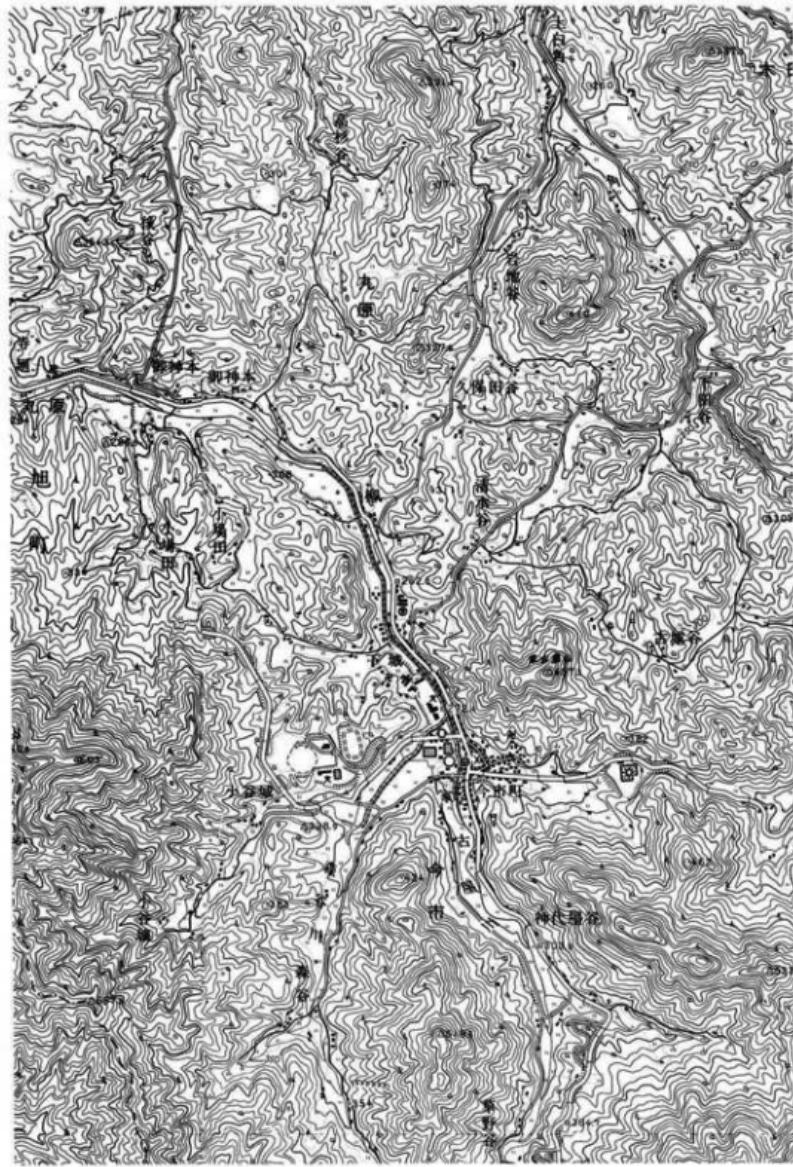


図2-3 久佐・今福地区遺跡分布図



G-H 石見今福・波佐 (1:25000)

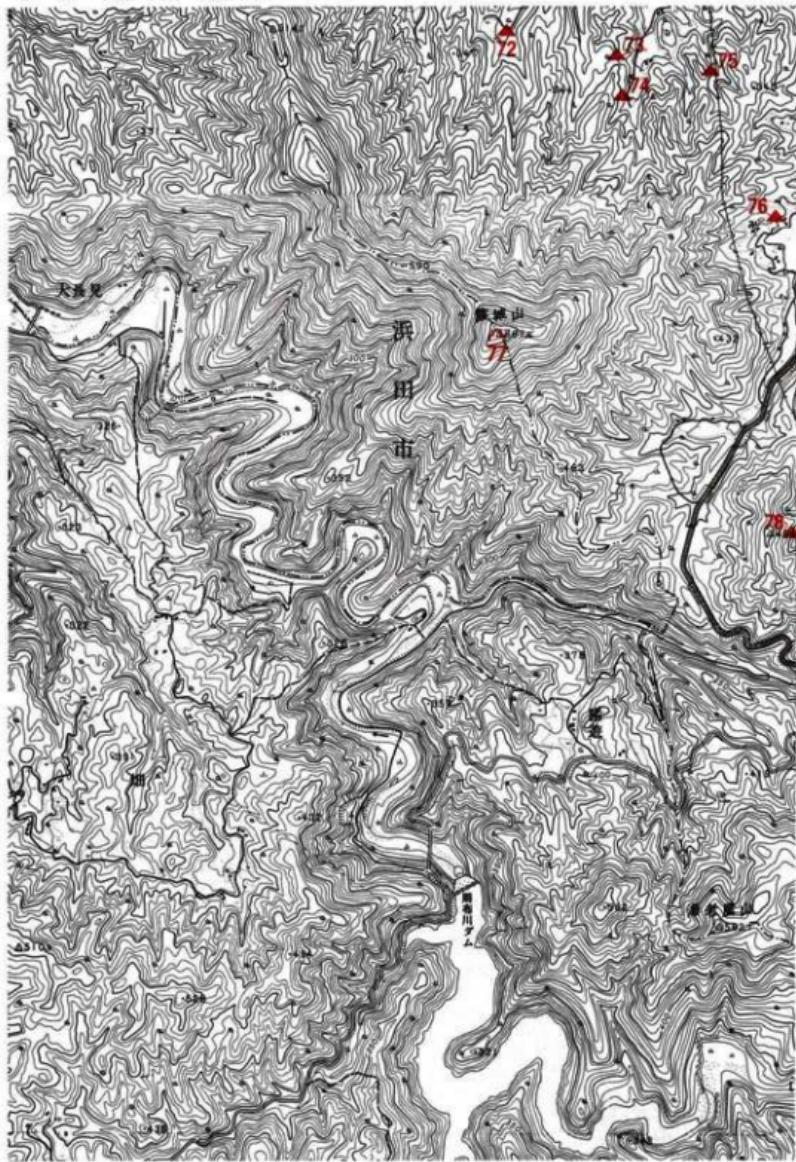
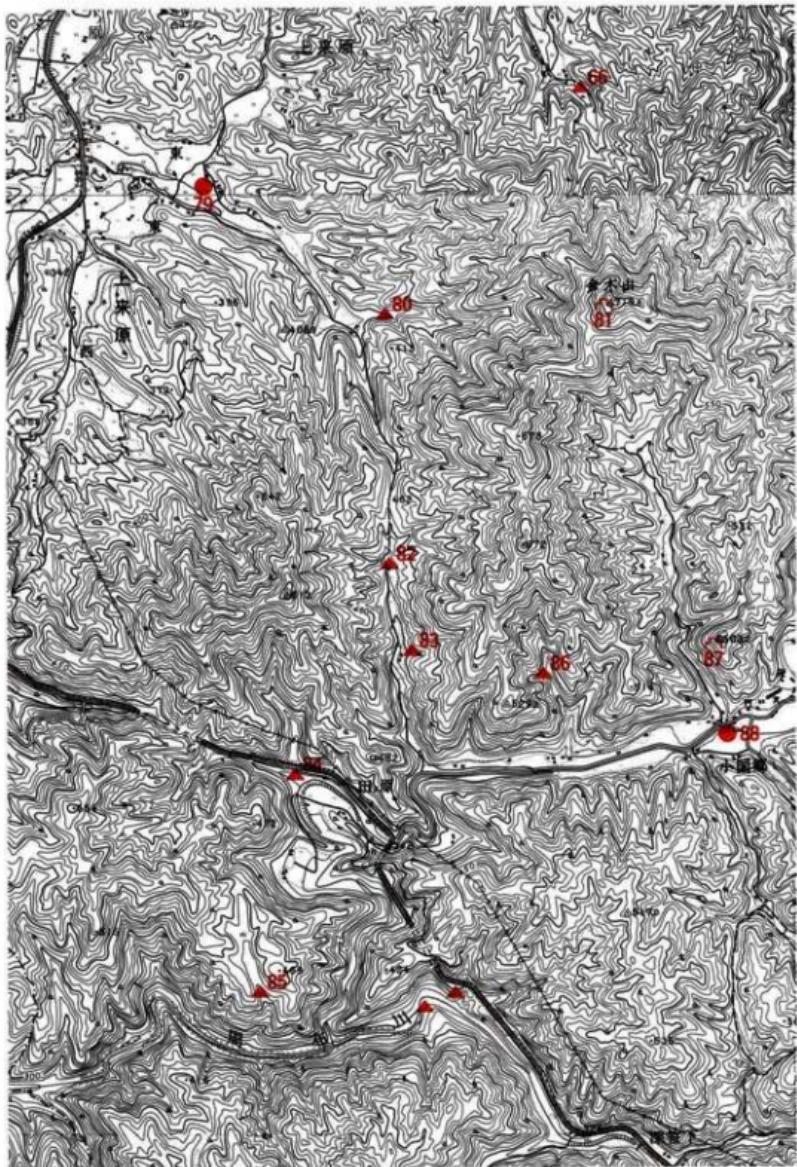


図 2-4 上来原・七条・小国地区遺跡分布図



I-J 石見今福・波佐・石見今市・石見坂本 (1:25000)

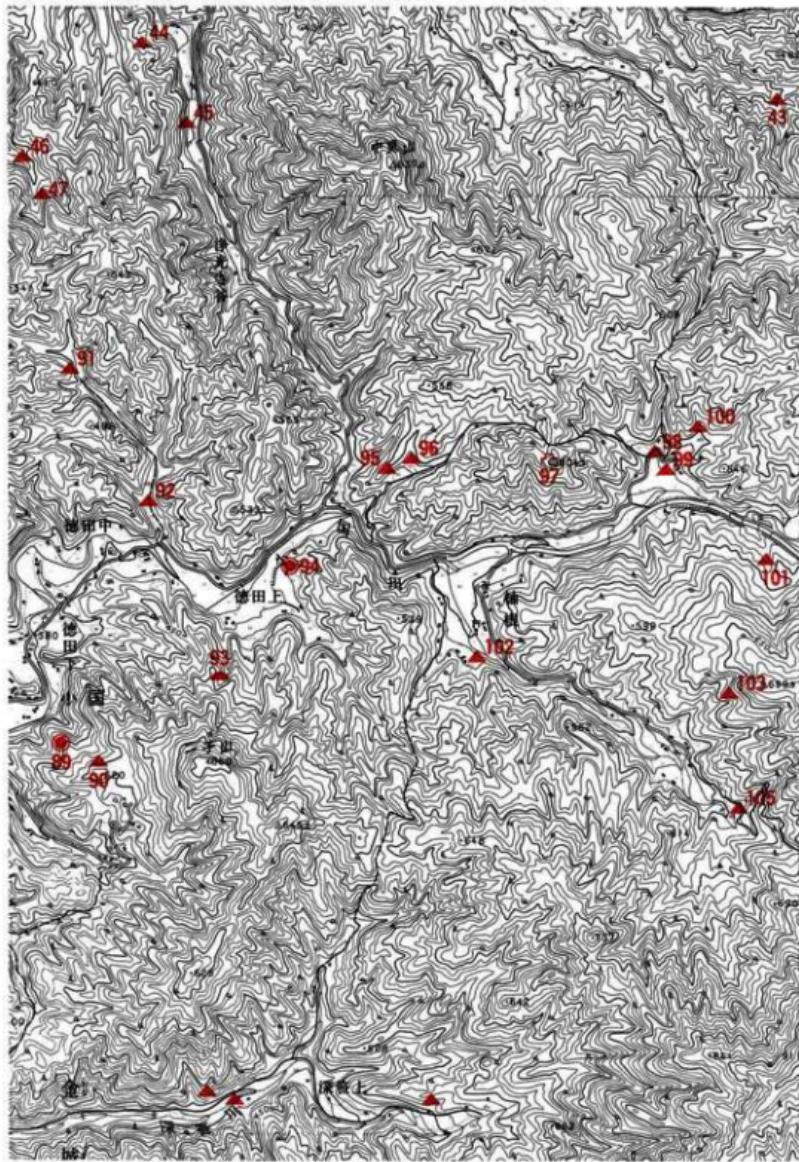


図2-5 小国・久佐地区遺跡分布図

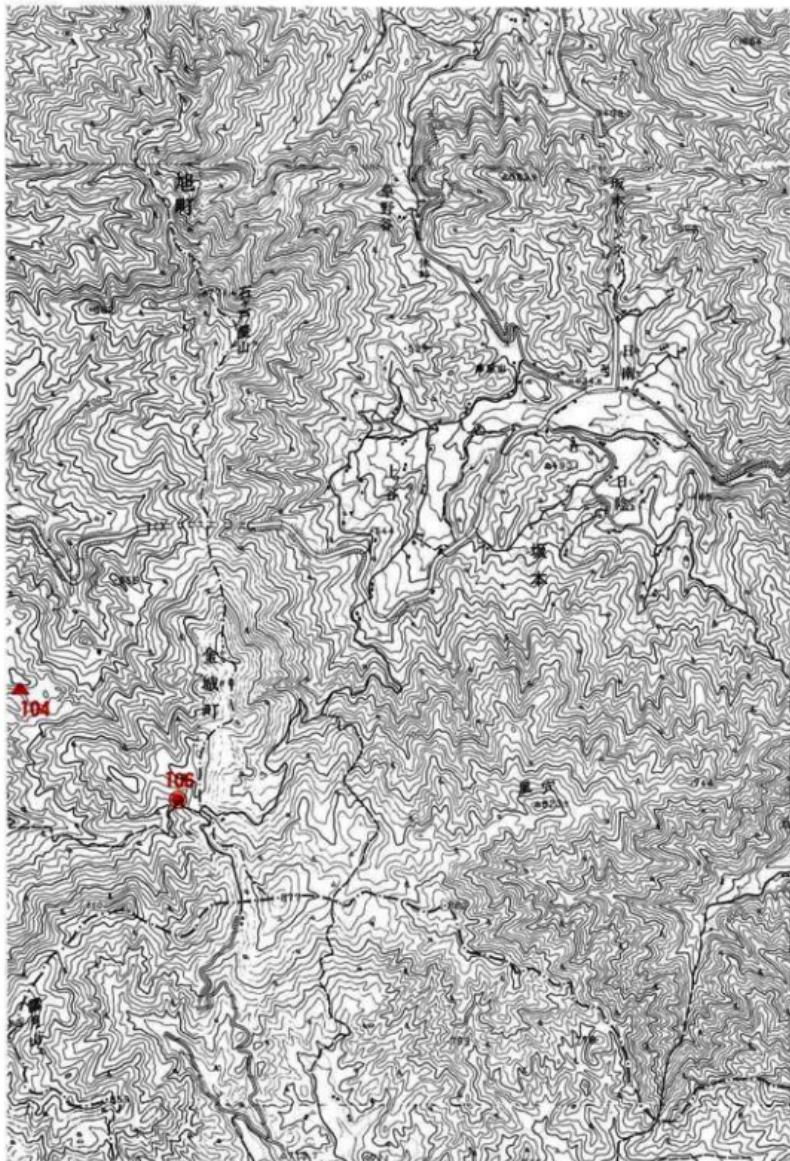


表1. 金城町内遺跡所在地一覧表

(美又地区)

番号	種別	遺跡名	所在地	現況 (地目)	遺跡の概況 (遺構・遺物)	切替番号
1	製鉄遺跡	沢津Ⅱ鉛	追原字太郎津上下 2326-10	原野	鉄滓	52号
2	"	沢津Ⅰ鉛	追原字下ノ平 2328	山林		47号
3	"	福原鉛	追原字カナクソ 1286	山林	鉄滓	26号
4	古墓	堂原経塚	追原字セト 1730	山林		15号
5	寺院跡	福田寺跡	追原字福田寺 328	山林		14号
6	その他	追原庄屋跡	追原字間處 223	宅地		6号
7	製鉄遺跡	大元鉛	追原字新鉛中の釜 2003	山林		18号
8	"	美又鉛	追原字道辛原 39-1	宅地		2号
9	城跡	乙明城跡	入野字浅ヶ塙 1155	山林		12号
10	製鉄遺跡	乙明鉛	入野字鉛ヶ迫 1161	山林		12号

(今福地区)

11	製鉄遺跡	段原鉛	宇津井字下モ田止 952-1	山林	鉄滓	12号
12	"	元谷鉛	今福字欽穴口 1178	山林		18号
13	寺院跡	藏福庵跡	今福字藏福庵 1193-1	原野	慶応2年(1866)安楽寺に合併	19号
14	製鉄遺跡	境ヶ谷鉛	今福字境ヶ谷 906	原野		17号
15	"	境ヶ谷鉄穴	今福字境ヶ谷上ミ 1747	山林		17号
16	城跡	笠松城跡	今福字藤ヶ谷セド山 1684	山林		14号
17	寺院跡	丹久庵跡	今福字丹久山 1609	山林		9号
18	製鉄遺跡	皆合鉛	今福字門畠 647	畠		9号
19	"	皆合鐵治屋跡	今福字萬ガセ 1606	道路		9号
20	城跡	田代城跡	今福字田代山 1607	山林	興國3年2月1日(1324年)落城	9号
21	製鉄遺跡	田代鉛	今福字新宅 624	畠		9号

番号	種別	遺跡名	所在地	現況 (地目)	遺跡の概況 (遺構・遺物)	切替番号
22	製鉄遺跡	藍ガセⅡ鉛	今福字藍ガセ 1606-9	山林		9号
23	"	藍ガセⅠ鉛	今福字藍ガセ 1606-9	山林		9号
24	城跡	小松原山城跡	今福字小松原山 1588-3	山林		8号
25	遺物散布地	岩塚Ⅰ遺跡	今福字ハツ割 268-2	畑		3号
26	製鉄遺跡	岩塚Ⅰ鉛	今福字宮ノ向イ 1451	山林		3号
27	遺物散布地	岩塚Ⅱ遺跡	今福字藏ノ脇 253-1	畑		3号
28	製鉄遺跡	岩塚Ⅲ鉛	今福字鉛原 158	宅地		2号

(久佐地区)

29	その他	久佐代官所跡	久佐字役所畠イ 1124	水田	明治5年、浜田地震により屋敷倒壊。 近隣隆興寺に代官の墓あり。	イ19号
30	製鉄遺跡	白甲第4鉛	久佐字松尾谷口 379	山林	鉄滓	ロ1号
31	"	白甲第3鉛	久佐字鉛口 60	山林	鉄滓	ロ1号
32	"	白甲第5鉛	久佐字松尾谷口 379	山林	鉄滓	ロ1号
33	"	白甲第6鉛	久佐字松尾谷口 379	山林	鉄滓	ロ1号
34	"	白甲第7鉛	久佐字松尾谷口 379	山林	鉄滓	ロ1号
35	"	宇栗鉛	久佐字鉄穴ヶ堀 口482	原野	鉄滓	ロ4号
36	寺院跡	金光寺跡	久佐字寺田口 115	雜種地		ロ2号
37	製鉄遺跡	白甲第1鉛	久佐字松尾谷口 379	山林	鉄滓	ロ1号
38	"	白甲第8鉛	久佐字白甲口 76	山林	鉄滓	ロ2号
39	"	白甲第9鉛	久佐字白甲口 76	山林	鉄滓	ロ2号
40	"	白甲第10鉛	久佐字白甲口 76	山林	鉄滓	ロ2号
41	"	白甲第11鉛	久佐字白甲口 76	山林	鉄滓	ロ2号
42	"	白甲第2鉛	久佐字白甲口 76	水田	鉄滓	ロ2号
43	"	猿押鉛	久佐字猿押奥口 369	山林		ロ2号
44	"	ナメラ鉛	久佐字ナメラセト イ1213	山林	鉄滓	イ3号

番号	種別	遺跡名	所 在 地	現況 (地目)	遺跡の概況 (遺構・遺物)	切開番号
45	製鉄遺跡	長谷鉢	久佐字吹屋床イ 261	水田	鉄滓	15号
46	"	高良谷鉢	久佐字高良谷 1198	山林	鉄滓	13号
47	"	小原谷鉄穴	久佐字高良台 1198	山林	鉄滓	13号
48	古 墳	今福古墳	久佐字塚神畠 ハ 32-1	畠		25号

(上來原・下來原・七条地区)

49	古 墳	火塚平古墳	下米原字ヒツカ平 1081-1	山林	横穴式石室	23号
50	"	下長屋古墳	下米原字河角セド山 1082-3	宅地		23号
51	"	猿ヶ馬場古墳	下米原字猿ヶ馬場 528-1	農道		11号
52	"	金田2号墳	下米原字八藏ケ原平 1334-3	畠		11号
53	"	金田1号墳	下米原字八藏ケ原平 1334-3	畠	左片袖式、横穴式石室。 径約10m、高さ1.5mの円墳。	11号
54	寺院跡	虚空蔵	下米原字庵屋敷 549	畠	約100mの平地	11号
55	製鉄遺跡	金田鉢	下米原字中屋敷上 555-3	山林	鉄滓多数	11号
56	その他	金田庄屋跡	下米原字土居 584-1	宅地	石垣、庭園、池、屋敷跡あり。	11号
57	遺物散布地	水佐古門遺跡	下米原字水佐古門田 852-1	水田	須恵器、土師器	21号
58	製鉄遺跡	吉留鍛冶屋跡	下米原字加藤太夫 1344	山林	鉄滓多数	10号
59	寺院跡	吉留寺跡	下米原字葉師堂 474統1	山林	三段造成。二段目に井戸あり。	9号
60	製鉄遺跡	弋ヶ迫鉢	下米原字鉢ヶ塙 1327	山林	鉄滓	12号
61	"	金屋平鍛冶屋跡	下米原字金屋平 1366	山林	鉄滓	8号
62	"	茶園ヶ塔鉄穴	下米原字茶園ヶ塔 1288-1	宅地	鉄穴水路跡、鉄穴堤	15号
63	城 跡	吉留砦跡	下米原字古城ヶ塔 1364-1	山林	西側二段の堀切り。北側斜面に縦横1m、深さ10mの古井戸	8号
64	製鉄遺跡	吉留鉢	下米原字鉢ヶ迫背戸 1365-1	山林		8号
65	古 墓	二反田經塚	上米原字二反田卜山後平 985	山林	川石山積み。	7号
66	製鉄遺跡	大谷鍛冶屋跡	上米原字松ヶ塙 650内3	雜種地		7号
67	"	唐谷鍛冶屋跡	七条字唐谷ハ 35	山林	鉄滓	57号

番号	種別	遺跡名	所 在 地	現況 (地目)	遺跡の概況 (遺構・遺物)	切替番号
68	製鉄遺跡	伊木鉈	七条字七条鉈口 108	宅地	鉄滓多数	45号
69	"	藤ヶ塔鉈	七条字稗田後 口 473-1	山林	鉄滓	48号
70	"	角屋鉈	七条字洗場イ 776	山林	鉄滓。水溜用の堤防あり。用水路4kmに及ぶ。	3号
71	その他	於局給	七条字於局給イ 139	宅地	尾轍跡の石垣、建物のカズラ石、底限あり。	8号
72	製鉄遺跡	山根谷鉈	七条字トイシケ原 イ 785-1	原野	鉄滓	7号
73	"	吉ヶ原鉈	七条字難院ヶ谷 イ 799-6	山林	鉄滓	10号
74	"	青原鉈	七条字椿ヶ谷 イ 779-1	山林	鉄滓多数	12号
75	"	上の塔鉈	七条字上の塔イ 284	山林		13号
76	"	木原谷鉈穴	上來原字奥田ヤ 793-1	水田	鉄滓多数	2号
77	城跡	雲城山城跡	七条字椿ヶ谷 イ 779-1	山林		12号
78	製鉄遺跡	上來原鉈	上來原字蛇ノ谷奥 848-1	山林		4号
79	遺物散布地	郷田門遺跡	上來原字下野田 514	水田	石器	6号
80	製鉄遺跡	東鐵治屋跡	上來原字塩山 903	山林	鉄滓	6号
81	城跡	全木城跡	上來原字金木城 907	山林		8号

(小国地区)

82	製鉄遺跡	人利鍛冶屋跡	小国字大利イ 518-1	山林		イ 9号
83	"	大利鉈	小国字大折裏平 イ 659-12	山林	鉄滓	イ 9号
84	"	田ノ原鉈	小国字勘場イ 585-3	畑	金池、鉄滓、鋸場跡面あり。	イ 10号
85	"	長沢鉈	小国字川平イ 640	山林	鉄滓	イ 11号
86	"	室屋敷鉈	小国字堂屋敷イ 855	山林	鉄滓	イ 9号
87	城跡	小国城跡	小国字最中山 804	山林	空堀2ヶ所あり。	イ 3号
88	遺物散布地	柿ノ木遺跡	小国字柿ノ木小国 イ 167-2	水田	石斧1個	イ 3号
89	寺院跡	正念寺跡	小国字古屋敷 イ 905-1	山林		イ 2号
90	製鉄遺跡	二子山鉈穴	小国字鉈穴イ 247	山林	水路跡	イ 4号

番号	種別	遺跡名	所在地	現況 (地目)	遺跡の概況 (遺構・遺物)	切替番号
91	鉄製遺跡	暮ヶ谷鋸	小国字暮ヶ谷イ12	原野 鉄洋		イ1号
92	〃	久佐谷鋸	小国字久佐谷イ2	山林 鉄津		イ1号
93	古墓	徳田経塚	小国字京塚ロ323	山林		ロ3号
94	寺院跡	桃源寺跡	小国字前尾敷 口305-5	原野		ロ2号
95	製鉄遺跡	猿木Ⅱ鋸	小国字猿木ハ168	水田 鉄洋		ハ3号
96	〃	猿木Ⅰ鋸	小国字猿木ハ169	樹叢地 金池・鉄洋		ハ3号
97	城跡	火の迫城跡	小国字火迫城 ハ433-2	山林		ハ3号
98	製鉄遺跡	宇栗遺鋸	小国字堀川ハ96	水田 鉄洋		ハ2号
99	〃	坂根Ⅱ鋸	小国字坂根門切ハ78	水田		ハ2号
100	〃	坂根Ⅰ鋸	小国字表谷本塙ハ89	原野 鉄洋・喜路		ハ2号
101	〃	作見谷鉄穴	小国字作見谷ハ59	水田 水路跡		ハ2号
102	〃	小屋ヶ谷鋸	小国字鋸床ハ346	山林 金池・鉄洋		ハ4号
103	〃	桐ノ木鉄穴	小国字桐ノ城 ハ399-1	山林 水路跡		ハ5号
104	〃	洗庭鉄穴	小国字境ヶ谷 ハ39-1	山林 鉄穴内に巨石群が散在。中央部に円形(3m角)の石組3ヶ所あり。		ハ5号
105	〃	境ヶ谷鋸	小国字境ヶ谷ハ313	原野 鉄洋		ハ5号
106	その他	雲月峠 古戦場跡	小国字雲月ハ392	原野		ハ5号

はじめに

島根県那賀郡金城町は、島根県の南西、中国山地の脊梁に位置し、町の中央部を国道186号線が南北に縦断し陰陽を結んでいる。また、北部を東西に主要地方道浜田八重可部線が横断している。北は浜田市、南は広島県芸北町に接し、南に高く、北に低い地形をなしており、中央部から北部に向って丘陵の盆地を形成している。

町の中央部に金木山（719.8m）があり、これを境として南部は山岳地帯で気候はやや寒冷で、北部は丘陵地帯で温暖である。

豊かな山林と豊富な水資源に恵まれ、古代から現代まで人の営みに適していた。併せて花崗岩土質のため優秀な真砂砂鉄を産し、たたら製鉄が盛んに行われた。このため、町内の製鉄遺跡の数が昨年の調査に続き、今回の分布調査でも新に相当数が発見された。

これらの成果をふまえて、本書では、町内の遺跡についてできるだけ詳細に記述し、金城町の埋蔵文化財を考える材料を提供したいと思う。（隅田）

金城町の遺跡

金城町の遺跡は、昭和60年度までに86箇所が確認されておりましたが、昭和61年度調査で新たに89箇所の遺跡が発見され、総数175箇所の遺跡が確認された。これらをもとに、時代毎に概観して行きたい。

縄文時代 今福の岩塚II遺跡、下長屋の水ヶ佐古門遺跡、上來原の郷田門遺跡、波佐の横ヶ曾根遺跡、同・七渡瀬遺跡、長田の長田郷遺跡などがある。岩塚II遺跡では、縄文前期、および中期～後期の土器・石鏃・磨石・叩き石・石皿・スクレーバー・石斧・石錐・石核・剥片（黒曜石製及び安山岩製）が、水ヶ佐古門遺跡では、土器・石斧などが、郷田門遺跡では石斧が出土している。南部の横ヶ曾根遺跡では、石斧が、七渡瀬遺跡では、縄文晚期の土器が、長田郷遺跡では、縄文後期～晚期の土器・石鏃（安山岩製）・剥片石器・磨石・石斧・石錐・凹石・敲石・堅果類（ヤマモモ、クルミ）などが出土している。

弥生時代 小国柿ノ木遺跡、波佐の七渡瀬遺跡、長田の長田郷遺跡、同・城ノ前

遺跡、同・ナゴダ遺跡などがある。柿ノ木遺跡では、石斧が、七渡瀬遺跡では、弥生前期～後期の土器・石錐・石鎌・剥片（黒曜石製及び安山岩製）敲石・石錐などが、長田郷遺跡では、弥生後期の土器・土錐・石錐などが、城ノ前遺跡では、弥生後期の土器・土錐・敲石などが、ナゴダ遺跡では、石斧が出土している。

古墳時代 下来原の金田1号墳、同・金田2号墳、同猿ヶ馬場古墳、同・下長屋古墳、同・火塚平古墳、今福の今福古墳の6基が確認されていますが、いずれも古墳時代後期の小円墳（径10m前後、高さ1.~1.5m前後）で、特に金田1号墳は昭和51年に発掘調査が行われ、左片袖式横穴式石室と判明した。玄室内からは、須恵器の提瓶・須恵器蓋坏・高坏・長頸壺・短頸壺・土師器の坏・直刀（鉄製）・金環など、盗掘されていたにもかかわらず、比較的多くの副葬品が出土している。下長屋古墳からは、須恵器の蓋坏・把手付碗が採集されている。しかし、前期・中期の古墳は、発見に至っていない。

奈良時代～平安時代 下長屋の水ヶ佐古遺跡、長田の長田郷遺跡、同・城ノ前遺跡などがある。水ヶ佐古遺跡では、須恵器の高坏・壺底部・坏底部・壺胴部などが、長田郷遺跡では、須恵器の坏・壺などが、城ノ前遺跡では、須恵器の破片が出土している。

鎌倉時代 今福の岩塚II遺跡、長田の長田郷遺跡、波佐の波佐一本松城跡、同・水見の城跡などがある。岩塚II遺跡では、青磁（中国産）が、長田郷遺跡でも青磁（中國産・蓮弁文）がそれぞれ出土している。波佐一本松城は、特異な縄張りの山城で、畝状空掘群（畝形阻塞）や水の手（軍用水路）、曲輪が狭少で閉鎖的な縄張りであること、陰陽の交通の要衝を押さえる優れた立地に位置していることで、河野氏、佐々木氏、小笠原氏と山城を巡る攻防が続いた。又長田郷遺跡から出土した青磁との関連を考えると、城の大手の方向に当たることから城主の居館がこの位置にあったとおもわれる。建武3年（1336年）8月25日の波佐谷の合戦が波佐一本松城、水見の城を中心にくりひろげられた。

室町時代 入野の乙明城跡、今福の笠松城跡、同・田代城跡、同・小松原山砦跡、下来原の吉留砦跡、上来原の雲城山城跡、同・金木城跡、小国の中村城跡、同・火の迫城跡、波佐の花城跡、長田の長田城跡などがある。いずれも南北朝時代の攻防のあった城郭で、乙明城跡は、江津市境の山城で、須恵器の壺の破片や炭化米などが出土した。金木城は、金木山（719.8）の山頂に位置する典型的な山城で、町の中心にあり周囲の眺望のかなうところにあり南北朝の合戦での攻防がくりひろげられた。小国

域は、金木城と密接な関係があった。

中世以降 製鉄（タタラ製鉄法）遺跡と、それに関連する鉄穴流し場、鍛冶屋跡の遺跡がおびただしく、あいついで発見された。この結果 113箇所の製鉄遺跡があることが判明した。特記すべき遺跡をいくつかあげると、久佐字白甲にある白甲 8・9・10・11・2鉢は、一箇所で時代変遷を見る上で貴重な遺跡である。小国の中木 I 鉢は、位置地形から推測して、2丁目ゴ鉢時代の古い鉢跡である。小国の中田原鉢は、一つの鉢場で数10年おきに再使用した複合遺跡である。ほぼ完全な遺跡として残っているものに、波佐の犬戻り鉢がある。鉄穴流し場遺跡としては、小国の中庭鉄穴があげられる。この遺跡は、中世以降の鉄穴流し場としての歴史があり、巨石群がおびただしく、遺跡の中に石積みの泊まり小屋跡が3箇所ある。又小国の中子山鉄穴は、近世の大規模な鉄穴流し場として著名である。これらの、製鉄遺跡を考えるときに、中世豪族の支配下から、江戸時代には、庄屋役がタタラ経営にのりだしている。こうした時代背景を考慮しながら石見の製鉄遺跡を見ていかなければならない。（隅田）

【参考文献】

金城町教育委員会『金城町の文化財・第1集=町内の古墳』(昭和58年)

金城町教育委員会『遺跡分布調査報告書I=金城町波佐・長田地区』(昭和61年)

島根県教育委員会『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II』(昭和60年)



岩塚全景航空写真



岩塚II遺跡出土品

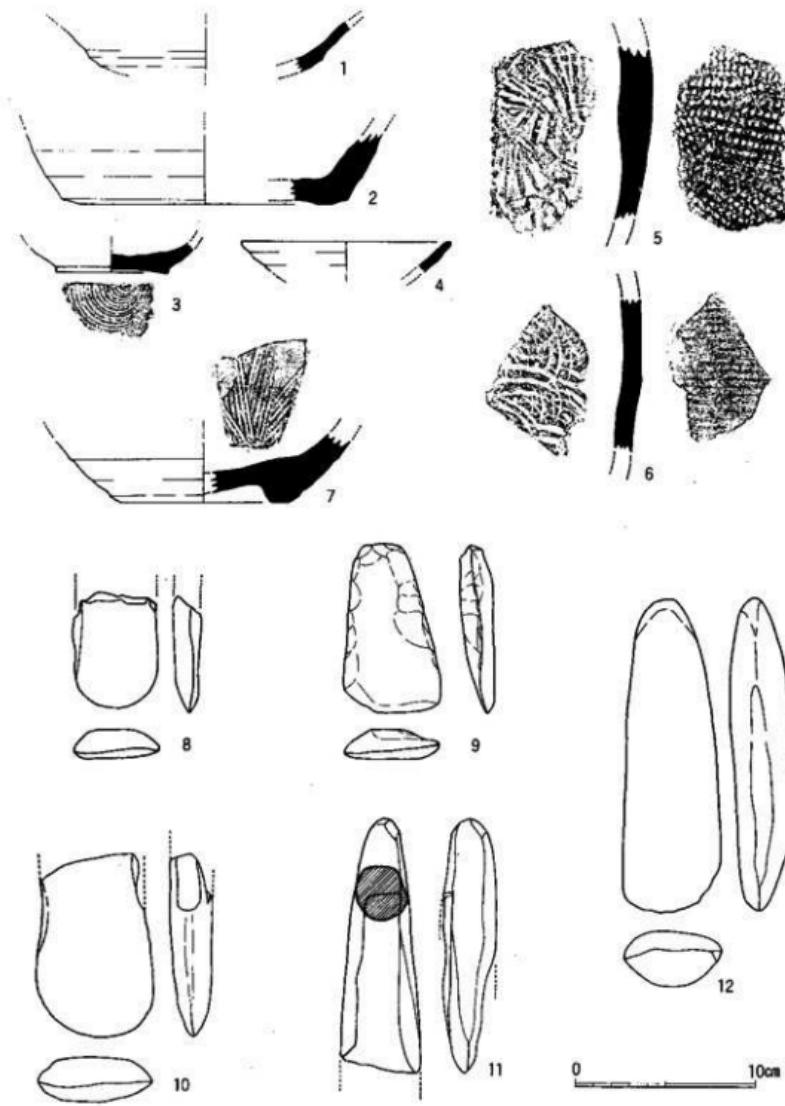


図3 金城町出土遺物実測図（水佐古門遺跡 1～8 柿ノ木遺跡 9 横ヶ曾根遺跡10
郷田門遺跡11・12）

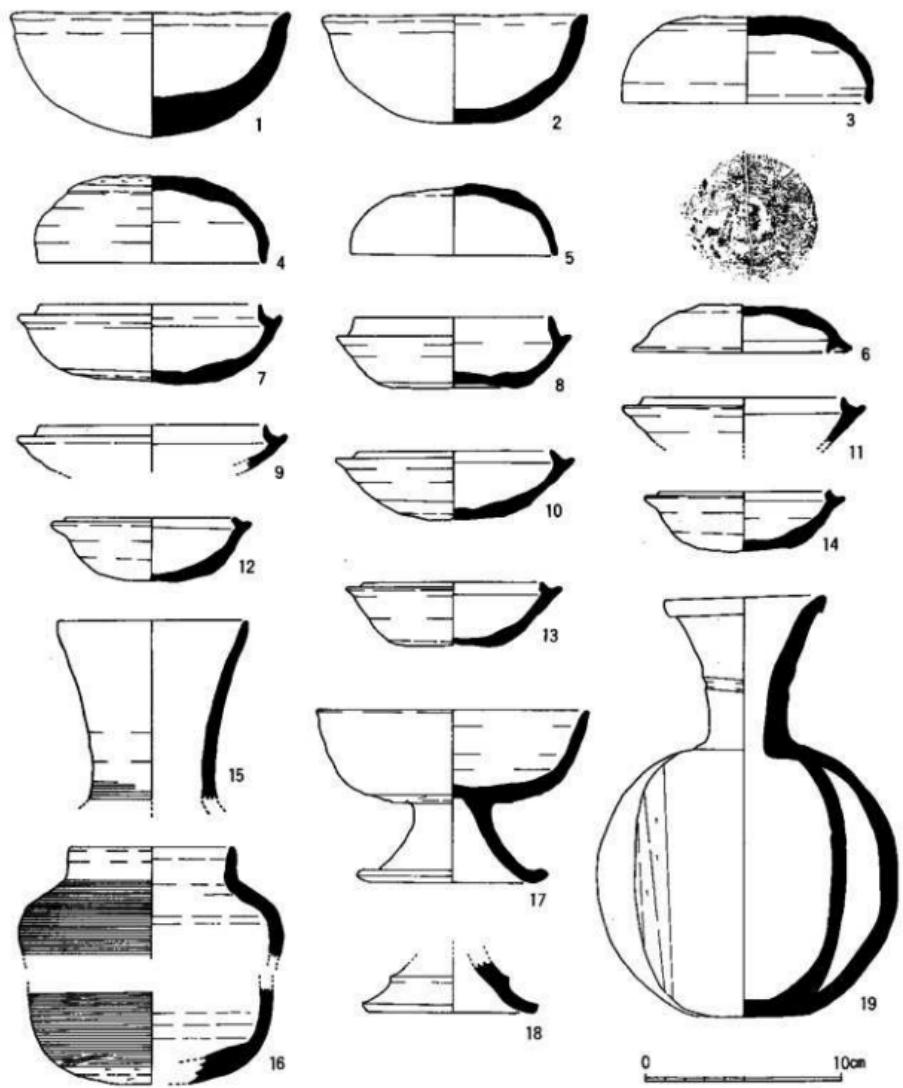


図4 金田1号墳出土土器実測図

図版 1



金田 1 号墳出土土器

結語

昭和60年度から2年間で実施した「埋蔵文化財分布調査」が、このほど終了し、本年度調査地区で106箇所の遺跡が確認された。詳しくは、金城町内遺跡所在地一覧表のとおりであるが、2年間の調査を総括して「金城町の遺跡」として概略を記述した。

これまでの成果を総合すると、金城町内には、旧石器時代の遺跡がまだ発見されていないが、今福の岩塚Ⅱ遺跡から出土した黒曜石、安山岩遺物の石器石材によると、黒曜石は、隠岐地域久見産と大分県姫島地域産と判明し、安山岩は、広島県冠山地域産であった。長田郷遺跡から出土した安山岩遺物は、冠山地域産で、この遺跡からは黒曜石遺物は、一点も発見することがなかった。この遺跡では、縄文時代後期から近世までの間に弥生時代前期・中期のみ欠けている遺跡であったが、昭和61年5月に長田郷遺跡から北へ1km離れた所で、七渡瀬遺跡が発見され、弥生時代前期・中期の遺跡であることが判明して、時代がつながったことと、この遺跡からは、黒曜石遺物が出土し、その結果、隠岐地域久見産と判明した。したがって、今の時点でいえることは、波佐地域に黒曜石がもたらされたのは弥生時代に入ってからであったと考えられる。

弥生時代の土器の出土により、弥生時代の稻作が海岸部に遅れることなく、比較的早くから山間部にも導入されていた明かしとなった。又、石器時代に依って古代の交易が考えていたより広範囲であったことも判った。このたびの調査結果をふまえて、今後の課題として、総合的な遺跡の詳細調査をする必要を感じている。

この報告書では、町内の代表的な遺跡の写真と製鉄遺跡の図面等を中心に掲載した。この報告書が、今後の文化財の保護、活用に広く利用されることを希望する。

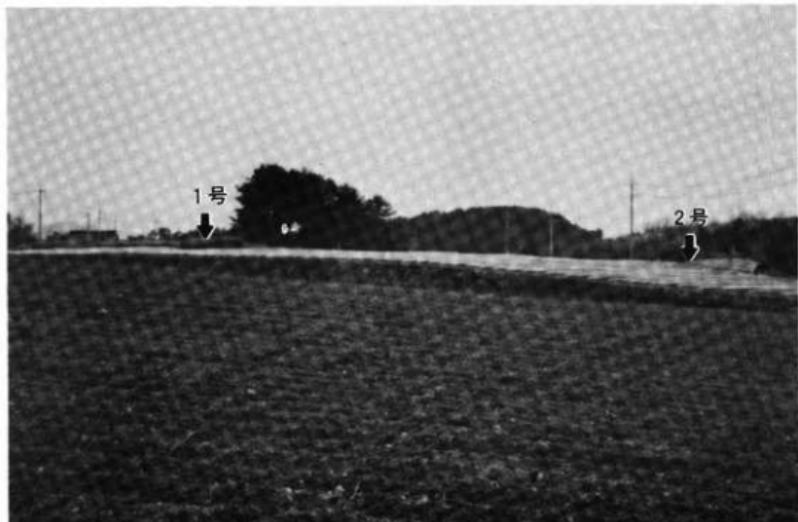
(隅田)



黒田門遺跡（北から）



柿ノ木遺跡（南から）



金田 1・2号墳（北から）



猿ヶ馬場古墳（南から）



火塚平古墳（南西から）



今福古墳（北から）



乙明城跡（南から）



田代城跡（北東から）



金木山城跡（北西から）



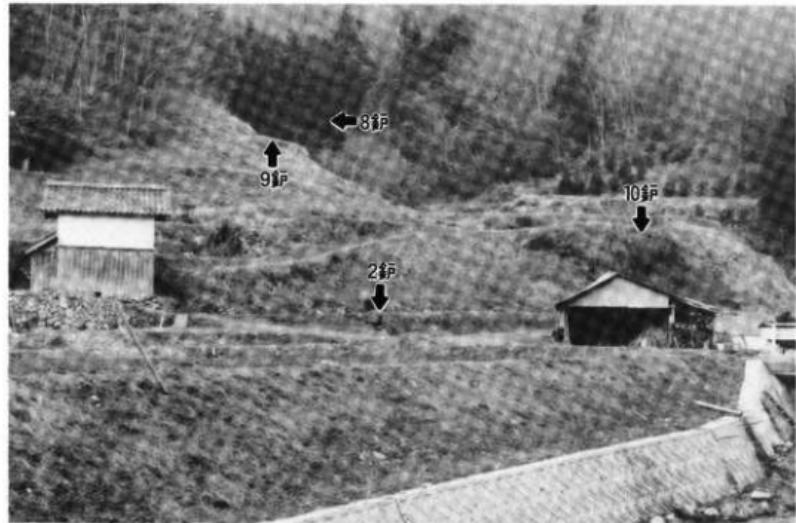
雲城城跡（東から）



小国城跡（南から）



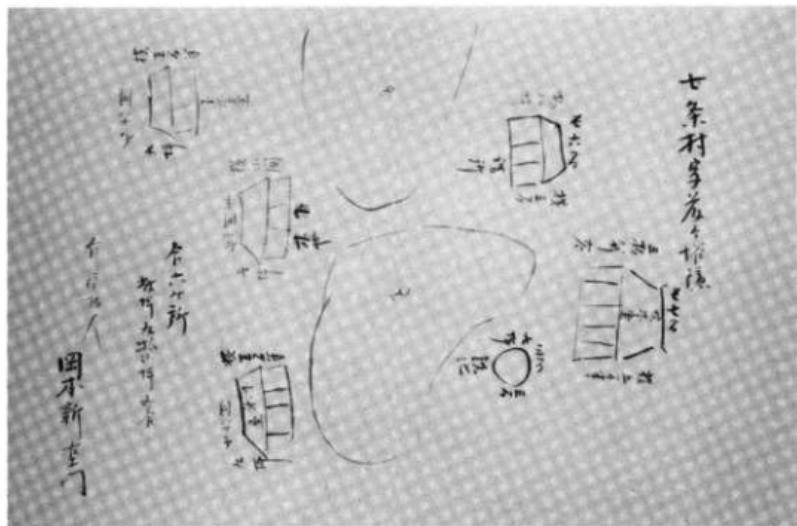
二子山鉄穴跡（西から）



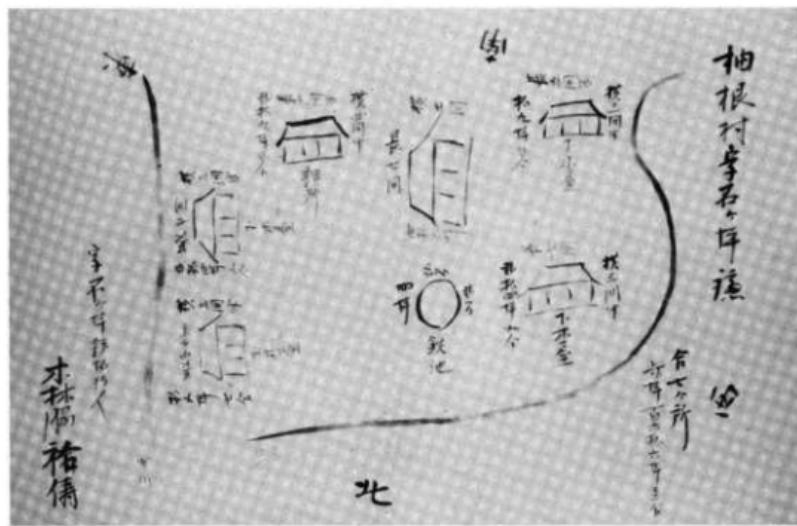
白甲2鉢（南から）



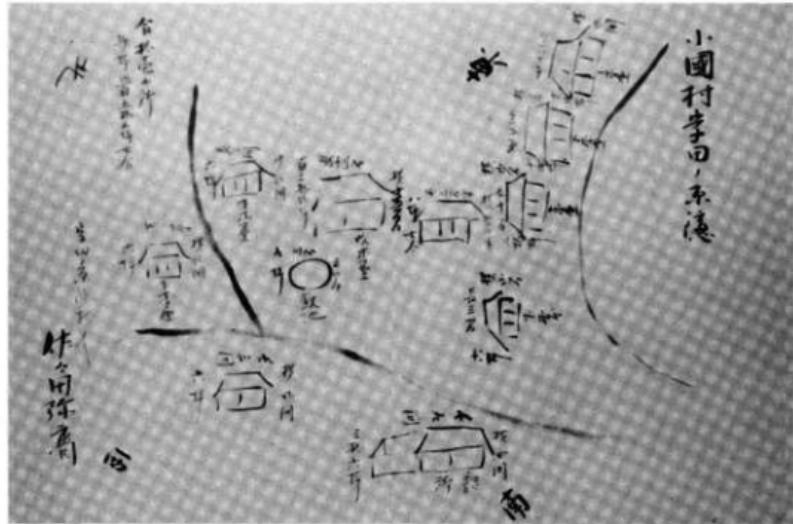
田ノ原鉢（南から）



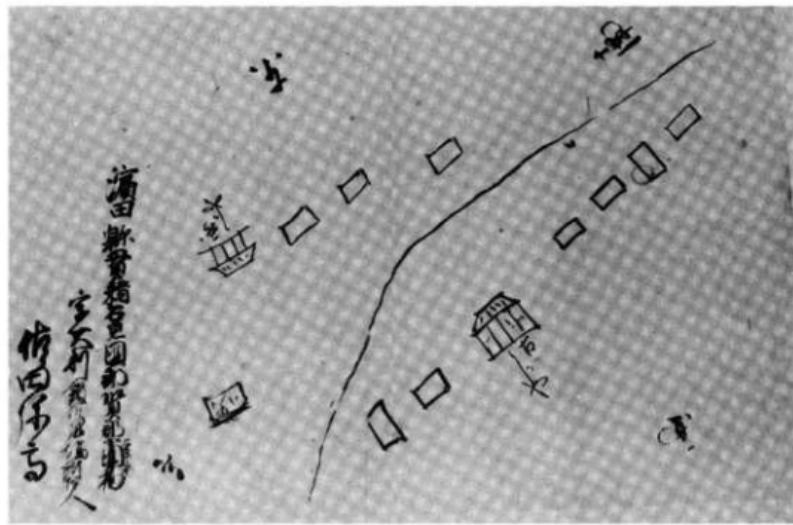
藤ヶ堀鉢図面



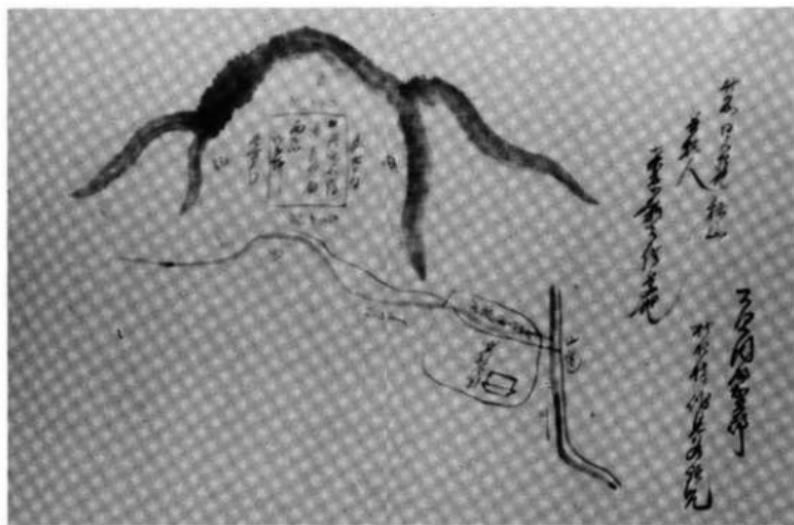
石ヶ坪鉢図面



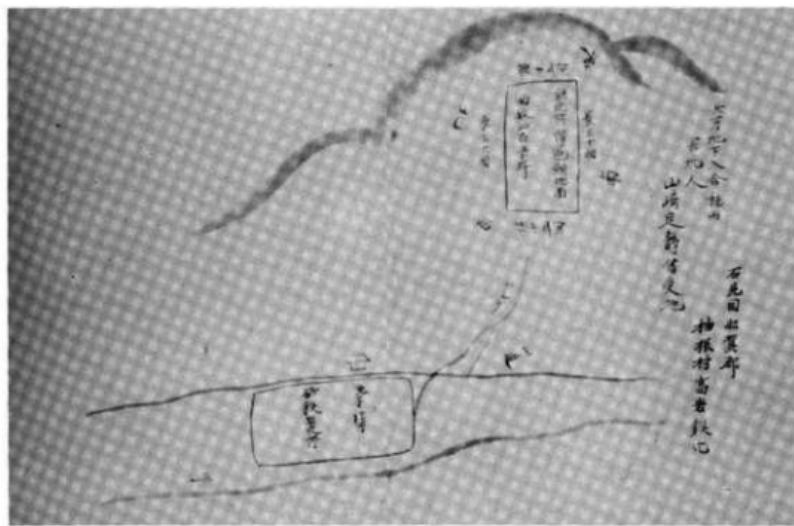
田ノ原鉱図面



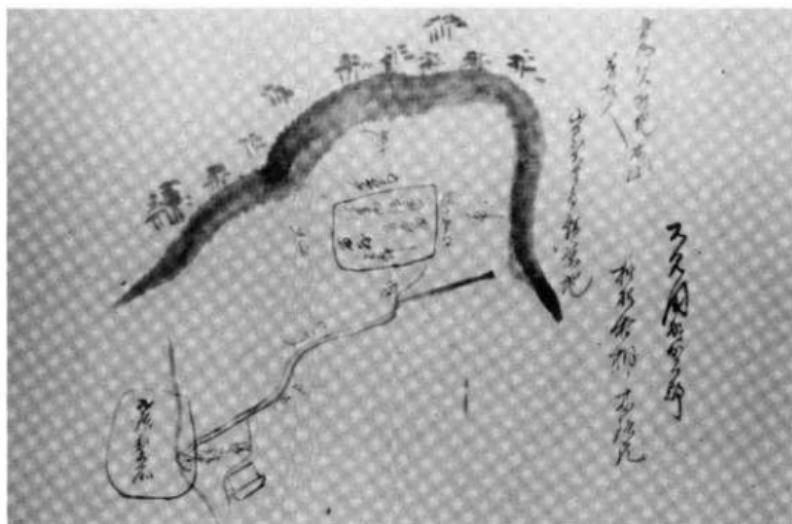
大利鋳冶屋図面



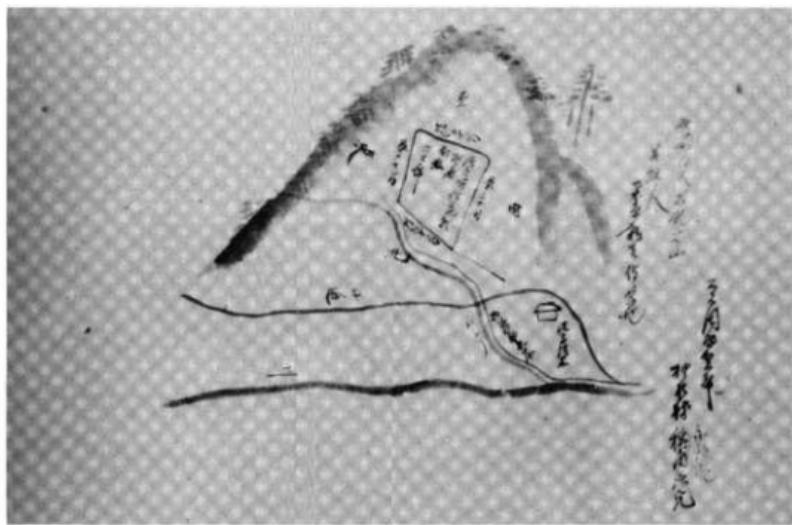
作見谷鉄穴絵図



高岩鉄穴絵図



桐ノ木鉄穴絵図



小鉄穴絵図

島根県那賀郡金城町内
遺跡分布調査報告書II

昭和62年3月25日

発 行 島根県那賀郡金城町
大字下米原171
金城町教育委員会

印 刷 松江市母衣町89
備谷口印刷